

平成 29 年度南予地方局予算の実施状況 (H30.3.31 現在)

1 予算事項名 高級菓子用果樹産地化推進事業費

2 事業期間 平成 26 年度～平成 30 年度

3 所 管 産業経済部産業振興課産地育成室

4 事業概要

宇和島市、松野町、鬼北町及び JA えひめ南は、(株)源吉兆庵と農林水産物の生産及び安定供給に関する協定を締結し、高級和菓子の原材料となるくりやもも、びわ、かきなどの高級菓子用果樹の産地化を早急に図る必要がある。そこで、植栽した苗木の早期成園化をすすめるとともに、省力化に向けた技術実証などを行う。また新たな高級菓子用果樹の現地適応性実証や新たな用途開拓の推進を図り、生産者の所得向上に繋げる。

| | |
|-----|----------|
| | 平成 29 年度 |
| 予算額 | 1,247 千円 |

5 29 年度の事業実施状況

(1) 高級菓子用果樹の省力的安定生産技術の推進

① 省力生産技術実証 もも・びわ

袋掛け作業の省力化技術を実証した。

実施日:6/13

○伸縮性被覆資材(サンテ)のサイズを 72×150 mmと 100×180 mmで作業性を比較した結果、サイズを大きくすることで作業時間が 28%短縮できた。

○高温障害を防止するため白色、ピンクのサンテを被覆した。大久保では、果皮が着色するため白、ピンクは不可であった。

○サンテ被覆は、基準に達した果実の大きさを判別しやすく収穫が容易であった。



省力被覆実証【5-(1)-①】



ももの着色状況【5-(1)-①】

びわの省力化実証として樹体被覆を実施

○びわは高木で、樹体被覆の時間が予想以上かかり省力化に繋がらなかった。

しかし、樹体被覆することで果実の成熟が 10 日以上遅れるため、作業分散が図れることがわかった。

- ② 低樹高栽培による省力化技術実証(くり 9~10 月)
脚立不使用でせん定し、慣行せん定と時間を比較、1/3
の時間に短縮できた。果実重は 15%増加した。
- ③ 早期成園化技術実証(8 月~)
びわの園地で液肥散布を月 1 回実施、6 種類の液肥を
比較。有効な液肥を選定した。
調査項目: 株元径、新梢長、新梢数、(根量)
- ④ かきの適正着果量実証
市田柿摘果実証
葉果比 15(長野県慣行)、葉果比 5 で果実肥大を
調査。果実の大きさに違いはなかった。また、翌年
の花つきにも影響が見られなかった。



市田柿着果状況【5-(1)-④】

- (2) 新たな高級菓子用果実の現地適応性実証(おうとう(さくらんぼ)、西洋なし、もも)
 - ① 地域に適応した管理及び樹形の検討
おうとうは開花したが結実なし。西洋なしは誘引し、栽培継続中
- (3) 新たな用途開拓の推進
 - ① 加工品等の開発支援
市田柿の加工品を産技研及び加工業者5社で試作、ドライフルーツ、チップス、ジ
ュレなどを作成した。
 - ② 用途開拓推進検討会
7 月 27 日、2 月 2 日に用途開拓検討会を開催し、加工業者及び関係機関が市田
柿の加工品(試作品)について協議した。
- (4) 高級菓子用果樹産地化推進
 - ① 生産振興会議/
生産振興会議を、くり・もも部門が 4/28、8/23、9/20、3/26。かき・びわ部門が
4/26、7/14、9/27、12/1 に開催した。
 - ② 早期成園化指導
市田柿栽培講習会 4/19、7/4、7/6、9/25、12/27、3/5
もも栽培講習会 5/15、6/8、7/3、9/5、12/13、2/26



びわ樹体被覆【5-(1)-①】



用途開拓推進検討会【5-(3)-②】



もも摘果講習会【5-(4)-②】